

難民キャンプも病院も

ガザ全域攻撃 130人死亡



イスラエルの攻撃を受け、破壊された家のがれきの下を調べるパレスチナの人たち＝17日、ガザ地区ラファ（ロイター）

イスラエルによるガザでの軍事作戦が拡大する

【エルサレム17日ロイター】イスラエルとガザの間のケレム・シャローム検問所から17日開戦以来初めて人道支援物資を載せたトラックがガザに入りました。ガザへの食料や医薬品の支援を倍加させることをめざす動きです。これまでエジプトとガザの境界にあるラファ検問所を通じてしか人道支援物資は入れませんでした。

イスラエル軍は17日、パレスチナ自治区ガザ全域に対し激しい攻撃を加えました。パレスチナ当局は少なくとも130人が死亡したと発表しました。

ロイター通信によると、ガザの保健当局は、北部のジャバリア難民キャンプへの攻撃で、90人が亡くなったと発表しました。

またガザ保健当局の報道官によると、南部ハンユニスのナセル病院の産科病棟にイスラエル軍の戦車の砲弾が着弾し、13歳の少女が死亡しました。この少女は、数週間前の自宅への爆撃で、父母と2人のきょうだいをなくし、自らの片脚を失っていました。

イスラエル・ガザ間検問所 支援物資を搬入

なかで、ガザの人道状況は劇的に悪化。国連機関は、食料、水、医薬品の深刻な不足を警告してきました。

パレスチナの国境当局者も、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）とイスラエルとの調整を経て、17日にケレム・シャローム検問所が開いたことを確認しました。

エジプト赤新月社の情報筋は、トラック70台が同検問所を通過してガザに向かっていると、ロイター通信に語りました。

イスラエル軍は、ハンユニスへの空爆で戦闘員7人を殺害し、ロケット製造用の部品とトンネルの立て坑3本を発見したと発表しました。ロイター通信が報じました。

イスラエル軍のハガリ報道官は同日「軍はハマスをせん滅する任務を断固として完遂する決意だ」と述べ、戦闘継続の意思を示しました。

イスラエルがテロ

教会での殺害 ローマ教皇が非難

フランシスコ・ローマ教皇は17日、イスラエルを「テロ行為を実施している」と厳しく非難しました。

非難したのは、イスラエル国防軍（IDF）の狙撃兵が16日、ガザ地区を担当するカトリック教会エルサ

レム教区の敷地に侵入し、避難していたキリスト教徒の女性2人を射殺したことについて。「まさしく戦争でありテロ行為だ」と主張しました。ロイター通信が報じました。

教皇はまた、マザーテレサ会の修道院が戦車の砲撃

で損壊したと、悲しみをあらわにしました。

エルサレム教区のラテン

・エルサレム総大司教座は声明で、女性2人の殺害に加え、7人が銃撃を受け、負傷したと伝えました。

教皇は「武器を持たぬ一般市民が爆撃と銃撃の標的になっている。そしてこのようなことが教会の教区の敷地内で発生した。敷地の中にはテロリストはいない。いるのは家族と子ども、病氣や障害を抱えている人、修道女たちだ」と訴えました。

イスラエル外務省の広報官は、事件は調査中と述べ、教皇の発言にはコメントしませんでした。一方でIDFは16日に教会の方から連絡があったことは認めつつ、死傷者については触れませんでした。さらに「宗教を問わず、民間人を標的にはしない」と関与を否定しています。